

(2) 財政状態に関する分析

①資産・負債・純資産の状況

資産については、現金及び預金が43億5千7百万円増加しましたが、受取手形及び売掛金が54億1千2百万円、有形固定資産が236億3千8百万円減少したことなどにより、317億6千3百万円減少し6,797億8千3百万円となりました。

負債については、支払手形及び買掛金が95億7千3百万円、有利子負債が230億2千3百万円減少したことなどにより、317億7千5百万円減少し3,901億6千1百万円となりました。

純資産については、為替換算調整勘定が79億7百万円、非支配株主持分が32億5千5百万円減少しましたが、利益剰余金が配当により53億円減少する一方、親会社株主に帰属する当期純利益により191億1千1百万円増加したことなどにより、1千2百万円増加し2,896億2千2百万円となりました。

②キャッシュ・フローの状況

営業活動によるキャッシュ・フローは税金等調整前当期純利益276億5千3百万円、非資金項目である減価償却費355億7千4百万円、減損損失90億8千万円の振戻し、法人税等の支払額65億2千5百万円などにより、686億2千8百万円のキャッシュ・インとなりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは有形及び無形固定資産の取得による支出344億8千5百万円などにより、337億2千6百万円のキャッシュ・アウトとなりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは長期借入金の返済による支出284億9百万円などにより、310億円のキャッシュ・アウトとなりました。

なお、有利子負債の当期末残高は、前期末に比べ230億2千3百万円減少し2,166億9千1百万円となりました。

また、現金及び現金同等物の当期末残高は、前期末に比べ42億2千4百万円増加し411億8千8百万円となりました。

(単位：億円)

項目	前期	当期	増減
営業活動によるキャッシュ・フロー	621	686	64
投資活動によるキャッシュ・フロー	△424	△337	87
財務活動によるキャッシュ・フロー	△139	△310	△170
現金及び現金同等物に係る換算差額	5	△5	△11
現金及び現金同等物の増減額	63	33	△30
現金及び現金同等物の期首残高	300	369	68
連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額	5	9	4
現金及び現金同等物の期末残高	369	411	42
有利子負債残高	2,397	2,166	△230

③次期の見通し

次期のフリー・キャッシュフロー（営業活動によるキャッシュ・フローと投資活動によるキャッシュ・フローの合計額）は、当期に比べ、有形及び無形固定資産の取得による支出の増加等により、減少すると予想しております。

有利子負債の期末残高については、当期末に比べ66億円減少の2,100億円と見込んでおります。

④キャッシュ・フロー関連指標の推移

	平成24年3月期	平成25年3月期	平成26年3月期	平成27年3月期	平成28年3月期
自己資本比率 (%)	30.0%	31.4%	34.5%	37.0%	39.2%
時価ベースの自己資本比率 (%)	34.0%	27.1%	28.7%	28.0%	31.0%
キャッシュ・フロー 対有利子負債比率(年)	6.3年	5.3年	6.6年	3.9年	3.2年
対純有利子負債比率(年)	5.4年	4.6年	5.8年	3.3年	2.6年
インタレスト・カバレッジ・レシオ (倍)	9.8倍	12.5倍	12.3倍	25.6倍	32.2倍

各指標の計算根拠

自己資本比率：(純資産－新株予約権－非支配株主持分) / 総資産

時価ベースの自己資本比率：株式時価総額 / 総資産

キャッシュ・フロー対有利子負債比率：有利子負債 / キャッシュ・フロー

対純有利子負債比率：純有利子負債 / キャッシュ・フロー

インタレスト・カバレッジ・レシオ：キャッシュ・フロー / 利払い

※各指標は、いずれも連結ベースの財務数値により計算しております。

※株式時価総額は期末株価終値×期末発行済株式数（自己株式控除後）により算出しております。

※キャッシュ・フローは営業キャッシュ・フローを使用しております。有利子負債は、連結貸借対照表に計上されている長短借入金、コマーシャル・ペーパー、社債、転換社債、リース債務を対象としております。純有利子負債は有利子負債からキャッシュ・フロー計算書の現金及び現金同等物期末残高を控除したものです。また、利払いについては、キャッシュ・フロー計算書の利息の支払額を使用しております。